

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 深町 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率を下回っていた。「書くこと」は全国平均正答率より上回っていた。しかし、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の2領域については課題が残される。
	よくできた問題	目的や意図に応じ、資料を使って話す問題、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題
	努力が必要な問題	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題、資料を用いた目的を理解する問題、文の中における主語と述語との関係をとらえる問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率を下回っていた。領域「変化と関係」については、全国平均正答率を上回っていた。課題のある領域は、「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」であった。特に図形に関する問題に課題がある。
	よくできた問題	速さを求める除法の式と商の意味を理解している問題、条件に合う時刻を求める問題、速さと道のりを基に、時間を求める問題、三角形の面積の求め方についての問題、棒グラフから項目間の関係を読み取る問題
	努力が必要な問題	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉えて比べる問題、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目しながら、図形の構成の仕方を捉えて面積の求め方と答えを記述する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○学校に行くのは楽しい、友達と協力するのは楽しいと感じている児童はとても多い、このことより、学校での人間関係はとてもよく、学校が児童にとって心の居場所となっていることがうかがえる。また、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと考える児童が多く、学級活動及び生徒指導、人権教育等の成果が認められる。</p> <p>○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えるということに関して、多くの児童が当てはまるという回答をしており、特別活動やキャリア教育の成果を読み取ることができる。</p> <p>○読書については、家庭での本の保有率は少ないが、学校での読書時間は多い傾向にある。国語科学習や学校図書館司書を中心に取り組んだ図書館教育の充実によって、読書の楽しさを児童が味わったことを示唆するものと考えられる。</p> <p>○新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言等の期間中、計画的に学習を続けることが難しいため、児童は、勉強について不安を感じている。また、規則正しい生活を送ることができなかったと回答する児童が多く、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う生活の変化は、児童の生活態度に少なからず影響を及ぼしているものと捉えられる。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<p>○各学級の児童の実態に応じ各教科の課題の克服を図り、学力の定着を図る。漢字や計算などは、繰り返し練習し確実な定着を図る。</p> <p>○主題研究(算数科を中心に)「基礎的・基本的な内容の確実な定着」「考えたことを表現する力を高める」ことや板書計画に力点を置きながら、授業の振り返りや自分の言葉で自己の学びを表現する力を身に付けさせていく。</p>

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○宿題や家庭学習について各教科の課題や児童の学習特性に応じた内容を整理して、児童の発達段階に応じて意図的・計画的に取り組めるようにしたい。</p> <p>○日常的なあいさつ等の基本的な生活習慣の確立に向けた指導を徹底するとともに、身近な人や地域の行事に対して積極的に関わることができるようにする。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の課題と取組等については、学校だより、学校HP等で成果と課題を説明し、保護者に周知していく。また、家庭と連携しながら学力向上のための取組を進めていく。</p> <p>○給食、保健、発育測定等の時間に、「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを繰り返し指導する。</p>
--